

## 「JFN賞2019」各賞決定！

### ■企画部門大賞

TOKYO FM 「村上RADIO」

### ■CM部門大賞

TOKYO FM 「あっ」(60秒)

### ■CM統一部門 満タン&灯油プラス1缶運動賞

FM 栃木 「もしも」(40秒)

### ■JFN学生ラジオCMコンテスト2019 最優秀賞

高橋 真由さん(日本大学芸術学部/40秒)

TOKYO FMをはじめ全国 FM 放送協議会 (JFN 会長：黒坂修) 加盟 38 社が、放送活動並びに新規事業の活性化とクオリティ向上を目指し、社会的影響力や企画力等、JFN グループ全体の発展に大きく貢献した事績を表彰する「JFN 賞 2019」の各賞が決定し、7月18日(木)に TOKYO FM ホールにて表彰式が行われました。

受賞作品は、まず「企画部門」大賞には、TOKYO FM 「村上 RADIO」が選ばれました。優秀賞には、FM 北海道「岩見沢市シティプロモーション 火曜ラジオドラマ『あゆみさん』」、広島 FM 「9 ジラジワークショップ 呉の CM を作ってクレ！2018」がそれぞれ選ばれました。

次に、「CM 部門」の最優秀作品に贈られる「CM 大賞」には、TOKYO FM 制作の「あっ」(60秒)、第1部門最優秀賞(20秒以内)には、TOKYO FM の「ラジオラバーズ『可能性』」(20秒)、第2部門最優秀賞(21秒以上)には FM 北海道の「エフエム北海道 自社広告『トップセールス』」(80秒)がそれぞれ選ばれました。

また、JFN 加盟各社が制作し、優秀作を決する「統一部門賞」では、今回は全国石油商業組合連合会の協賛を得、「満タン&灯油プラス1缶運動賞」を競い、FM 栃木の「もしも」(40秒)が選出されました。

特別審査員独自の視点から高い評価が認められた作品に対して贈られる弘兼憲史賞、谷山雅計賞、箭内道彦賞には、FM 岩手制作の「radiko 局報 20秒『巻き戻す』」(20秒)が弘兼憲史賞を、ふくしま FM 制作の「先人の声」(40秒)が谷山雅計賞を、FM とやま制作の「ばそこん教室」(20秒)が箭内道彦賞に、それぞれ選ばれました。

全国の学生が、自身の学校を PR するラジオ CM コピーを競う「JFN 学生ラジオ CM コンテスト」は8回目を迎え、日本大学芸術学部の高橋真由さんが最優秀賞を、成城大学の興石玲央さん、

HAL 名古屋の亀居秀斗さんがそれぞれ優秀賞を受賞しました。

今回の「JFN 賞 2019」について、特別審査員長の弘兼憲史氏は、「この賞の審査は、各審査員が一番気に入った作品に 6 点をつけるという形で行っています。集計したところ、TOKYO FM の『あっ』が、他を圧倒して受賞しました。TOKYO FM には安定した強さがあります。審査で心がけているのは、面白く、楽しく、あえて制作者のみなさまの前で公開審査するという事です。それを勉強になると思う人もいれば、『けっ』と思う方もいるでしょう。それでも、選考過程を見てもらうことは意味のあることだと思っています。今年は初参加の方が多かったのか、いっなくな静かでした。来年はもっと激しく行いましょう」と述べました。

特別審査員の谷山雅計氏は、「私が尊敬している、日本のテレビ CM の基本を作った大先輩が、若いクリエイターに『仕事をしているときに、何かひとつだけでいいから冒険しなさい。音楽でも、タレントでも、コピーでもいい。それをしないと、我々の仕事は慣れで作っている凡庸なものになってしまう』とアドバイスしていました。全てを新しくすることは難しいけれど、ひとつでいいと。今の世の中は冒険しにくい。私の若い頃は、『広告』というものはスルーされるのが一番よくないことで、反対の意見があっても良かった。しかし、今はすぐにネットで炎上するので、それを恐れがちですが、それではクリエイティブは良くなりません。ラジオはそれを許容できるメディアです」と述べました。

同じく、特別審査員の箭内道彦氏は、「学生ラジオ CM コンテストについては、ここ数年、ラジオを知らない、ラジオの受信機を見たことがないという、まるで戦争を知らない子どもたちのような世代からの応募が多かったような気がしていたのですが、radiko などの影響か、今年は、高校生の頃からラジオを聴いていたという世代が応募してくれたように感じました。若い人はどこかさめているイメージがある中で、受賞した作品にはどれも熱い想いと愛がありました。特に最優秀賞作品は、プロには作れないみずみずしさ、この時にしか作れないものを感じました」と述べました。

各賞の結果は次の通りです。

## ◎JFN 賞・企画部門

「JFN 賞・企画部門」は、加盟各社がエントリーした放送・事業・営業活動事例の中から、JFN 各委員会委員長から成る「JFN 賞選考委員会」にて選定されました。今年の審査対象は、2018 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日までの間、JFN 加盟各社が活動した作品です。今年は、エントリー 30 社 52 件の中から、以下の各賞が決定しました。

### ■大賞

#### TOKYO FM/村上 RADIO

デビュー以来、地上波に出演した事のない村上春樹氏。世界中にファンを持つ村上文学は、音楽と不可分な関係にある。ご本人がラジオに関心があるという噂を聞き、口説き落として実現した企画。各回、ご本人の提案によるテーマについて、一人語りでリスナーに軽快に、時に深く語り掛けた。番組の中で「小説の書き方は全て音楽から学んだ」と語る村上氏。その声と卓越した選曲センスに、多くの驚きと反響が寄せられた。

(番組部門申請)

### ■優秀賞

#### FM 北海道/岩見沢市シティブロモーション 火曜ラジオドラマ「あゆみさん」

岩見沢市がシティブロモーションの一環として実施した企画。ラジオドラマと市職員出演のインフォメーションから成る番組。30 代のワーキングウーマンが、子育てと仕事の狭間で揺れ動きながら岩見沢に移住するストーリーで、リアルに移住をイメージさせた。岩見沢市の施策にドラマの内容を近付け、インフォメーションとドラマの内容をリンクさせて、10 分間に一体感を持たせた。また、ドラマに登場する場所を巡るバスツアーや、イベント出店等の実施により、現実とドラマの距離を縮める事でプロモーション効果を高めた。

(営業部門申請)

## ■優秀賞

### 広島 FM/9 ジラジワークショップ 呉の CM を作ってクレ! 2018

進学で地元を離れる若者に地元愛を持って貰いたいとの思いで、10代向け番組『大窪シゲキの9ジラジ』と呉市でコラボレーション企画を実施。講師を迎え、豪雨災害を受けて観光客が減少した呉の魅力を発信するCMを高校生が考えるワークショップを開催。24名の高校生がCMコピーを作成。優秀作品5本を本人出演・演出で収録し、呉市のCMとして放送した。地元の高校生にとって改めて呉市に触れる機会となったほか、豪雨災害から復興に向け日々前進している呉市を県内全域にPRした。呉市からも高く評価され、ラジオ局の存在価値を高める事に繋がった。

(番組部門申請)

## ■奨励賞

### FM 岩手/エフエム岩手・エフエム佐賀 戊辰戦争 150年共同制作

#### 「歴史が照らす明日への光 ～岩手・佐賀 戊辰 150年の願い～ 学生編①」

昨年150年を迎えた戊辰戦争に明日を探そうと考える岩手県と佐賀県。両県知事は、戊辰戦争以後の両県の発展要素として『教育』というキーワードを挙げている。それを継承する岩手大学と佐賀大学の学生が、郷土の歴史に学び、その知恵と志を活かし、“戦いと争い”ではなく、“交流と連携”を通じて「豊かで住み良い、誇れるふるさと」を創り出そうというチャレンジ。新聞にも掲載され、ツイッターでも多くの支持が寄せられた。

(番組部門申請)

## ■奨励賞

### K-mix/K-mix アーティスト ひな祭りコンサート “ピアノのまちからこんにちは”

K-mixで番組パーソナリティを務める全7名の女性ピアノ弾き語りシンガーソングライターが、静岡県のピアノ・メーカー3社が本社を構える「ピアノのまち」に集い、KAWAIの最高級モデルのピアノを弾き継ぎ、歌う、全国的にも稀有なコンサートを開催。この模様を撮影したドキュメント&ライブDVDも制作し、多くの地元クリエイターがこの制作に携わった。K-mixレーベルより8月にリリース予定である。

(番組部門申請)

## ■奨励賞

### FM 山口/FM 山口、ふくしま FM、TOKYO FM 共同制作

#### 明治 150年記念特別番組 時を越える合唱 (ハモニー) ～長州・会津の 150年～

150年前の戊辰戦争は、今でも福島・山口両県民に辛い記憶として残っている。今、両県の高校生は、明治維新や当時戦った若者達にどんな思いを抱いているのか。会津高校と萩高校が、2011年に福島県で開催された全国合唱大会で、共同制作曲『友情 時を越えて今』を共演、今も交流は続いている。ともに作り、ともに歌ったこの曲の背景にあったドラマとは。共演当時の部員、顧問教諭、現役の部員を取材し、記憶を受け継ぎ未来に向かう若者の姿と歌の魅力を描いた。共同制作した3社、それぞれが地元スポンサーを獲得した。

(番組部門申請)

## ■地域賞

### FM 山形/エフエム山形開局 30年記念特別番組 「緑の宝 ～山形の森～」

社のシンボルカラーである緑を強調するべく実施した開局30年事業の主要企画。山形県は、県土面積の約7割を森林が占める森林県。中でも特筆すべき自然を「緑の宝」として10ヵ所を選定し、多角的視点でその素晴らしさ、大切さを現地の取材音源とともに紹介した。山形県をはじめ、環境活動に取り組んでいるスポンサー10社が提供し、県発行の情報誌にも掲載された。

(番組部門申請)

## ■地域賞

### FM GUNMA/特別番組 「ラジオ課外授業 夏休みこども教室」

子供達にラジオ業界を目指して貰うため、「一人で深く・本気で伝える」をテーマに、5人の小学生を対象に番組出演と制作体験を実施。後日、特別番組として放送した。参加者の家族を巻き込み、事前打ち合わせ、原稿作成等の準備も体験した上で、子供達が特別番組のメインパーソナリ

ティとして出演。リスナーも楽しめるよう、子供達が CM を読み、家族がナレーションを担当したほか、様々なサプライズも盛り込んだ。協賛社は 10 社に上った。

(番組部門申請)

#### ■地域賞

##### FM 滋賀／滋賀県情報発信拠点「ここ滋賀」1 周年アニバーサリーイベント

###### 『SHIGA'S 感謝祭』開催！

東京・日本橋「ここ滋賀」開設 1 周年イベントを開催。「シズル食、ヒカル技、シタタル酒」をコンセプトに、連日、特別催事を実施。11 月 3 日の「大感謝祭」では、滋賀県知事を迎え、TOKYO FM の番組公開収録イベントも開催。県内のみならず、首都圏でもラジオ告知を行った結果、特別催事やイベントの売上は増加し、来館者数も過去最高となった。ローカル局と首都圏キー局との連携によるローカル情報発信イベントの構築は、お互いの強みを活かした発信や情報を随時行った事で、多くの反響や集客を得た。

(営業部門申請)

#### ■地域賞

##### FM OH!／西国三十三所 Trip around 33

平成 30 年に草創 1300 年を迎えた「西国三十三所」にスポットを当て、その由縁、各寺院の由緒や特色を、新たな切り口で清水寺執事補の森清顕師が紹介。通常のガイドブックでは知り得ない話題も交え、親しみやすく楽しく三十三所の魅力を伝えた。オリジナルご朱印帖の発売や、出演者が案内するリスナー参加のバスツアーを定期的に開催する等、放送だけに留まらない立体的なプロジェクトである。三十三所全ての寺院の協力を得るとともに、それに賛同する多くの企業が協賛している。

(営業部門申請)

#### ■地域賞

##### FM 鹿児島／THE GREAT SATSUMANIAN FESTIVAL 2018

鹿児島出身アーティストの熱意が関係者の心を動かし、鹿児島のシンボルである桜島で開催した野外ライブイベント。あらゆるジャンルで活躍する多数のミュージシャンが集結し、「音楽」そして、鹿児島の魅力である「食」「風土」で、鹿児島県内はもちろん、県外から訪れる多くの人達を魅了した。2 日間で 50 組のアーティストがパフォーマンスを繰り広げ、30,000 人を動員した。

(営業部門申請)

#### ■特別賞

##### FM 長崎／完全自社制作運営 野外フェスティバル

###### Sky Jamboree ～one pray in nagasaki～ 20 周年

企画、制作、ブッキング、チケット販売、運営、全てを自社中心で行う音楽野外フェスティバル。1999 年に「祈り」をテーマにスタート。2010 年以降は毎年 1 万枚のチケットが完売し、8 月に 20 回目を迎えた。地元のみならず、全国から音楽ファンが集まり、多くのテレビや雑誌の取材を受けた。完全自社運営の大型フェスティバルは他に類を見ず、音楽のチカラで長崎から「祈り」のメッセージを届けている。地元の音楽放送局としての役割を果たしている。

(営業部門申請)

#### ◎JFN 賞・CM 部門

JFN 加盟 38 社の CM 制作力の向上と、CM を通じて地域社会の文化に貢献する事を目的として優秀 CM 作品を表彰するのが「JFN 賞・CM 部門」です。今年の審査対象は、2018 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日までの間、JFN 加盟各社が自社で企画または制作、放送した CM です。斬新な発想や演出と技法、地域性、公共性、影響力 (CM 効果) が審査基準となります。今年は、エントリー総数 126 本の中から、特別審査員長の弘兼憲史氏 (漫画家)、特別審査員の谷山雅計氏 (コピーライター)、箭内道彦氏 (クリエイティブディレクター) をはじめ、企業審査員、JFN 各社の CM 制作担当者 38 名による「公開審査会」で、以下の各賞が決定しました。

**【CM 大賞】**

TOKYO FM 「あっ」(株式会社東京タワー／60 秒)

**【第 1 部門 最優秀賞】※20 秒以内 (エントリー数=57 本)**

TOKYO FM 「ラジオラバーズ『可能性』」(株式会社エフエム東京／20 秒)

**【第 2 部門 最優秀賞】※21 秒以上 (エントリー数=31 本)**

FM 北海道 「エフエム北海道 自社広告『トップセールス』」  
(株式会社エフエム北海道／80 秒)

**【統一部門 満タン&灯油プラス 1 缶運動賞】 エントリー数 40 秒=38 社 38 本**

FM 栃木 「もしも」(全国石油商業組合連合会／40 秒)

**【JFN 学生ラジオCMコンテスト 2019】**

最優秀賞 高橋真由さん (日本大学芸術学部／40 秒)

優秀賞 興石玲央さん (成城大学／20 秒)

優秀賞 亀居秀斗さん (HAL 名古屋／20 秒)

**【奨励賞】**

○地域ブロック賞

**・北海道・東北**

FM 仙台 「うまい鮭勘『何食べたいかわかる』」(株式会社アミノ／60 秒)

**・関東・甲信越・静岡**

K-mix 「久しぶり」(京昌園／20 秒)

**・中部・北陸**

@FM (FM AICHI) 「@FM radiko 訴求『方言の女たち』」(株式会社エフエム愛知／60 秒)

**・近畿・中国・四国**

FM 香川 「天下統一」(焼きたてパン工房ゆたか／20 秒)

**・九州・沖縄**

FM 熊本 「わかる～」(エーエスライジング／20 秒)

**【制作者審査員賞】**

TOKYO FM 「あっ」(株式会社東京タワー／60 秒)

**【弘兼憲史賞】**

FM 岩手 「radiko 局報 20 秒『巻き戻す』」(株式会社エフエム岩手／20 秒)

**【谷山雅計賞】**

ふくしま FM 「先人の声」(全国石油商業組合連合会／40 秒)

**【箭内道彦賞】**

FM とやま 「ばそこん教室」(わらびしい倶楽部／20 秒)

※お問い合わせ：全国 FM 放送協議会 (JFN) 事務局 峯岸／吉垣内 (TEL 03-3221-0246)